

# 出会いふれあい

「県大会で優勝できた勝因は、本番でもお互いの声を掛け合い、他のチームよりも団結力があつたから。」と宇佐美大希主将は断言します。今後の目標は7月28日に行われる全国中学校相撲大会県予選会で優勝し、青森で開催される同全国大



前列中央が宇佐美主将

「目標は？との質問に、黒田啓悟主将（3年）は「中部日本大会で優勝することです。」と目を輝かせながら、即座に返事を返してくれました。「しかし、



最後列右から2人目が黒田主将。右奥が山中監督

# 青春ing

## 見事！県下総合選手権で優勝 決め手は団結力!!

### 勝山北部中学校相撲部

相撲の県下総合選手権が6月17日に県立武道館で開催され、県内から9中学校が出場し、勝山北部中学校（戸田昭仁校長）相撲部が並居る強豪を押し破り見事優勝を果たしました。日頃の練習では、基本をしっかり身につけ、お互い声を出し合つて団結力を深め、アドバイスし合うことで自分の欠点を克服することを念頭にチームづくりに励んでいます。

会に出場すること。宇佐美主将が相撲から学んだことは、「礼儀と心技体の充実、団結してみんなで取り組むことの大事さです。これまで主将として練習内容を考え、自分を強く鍛え他の選手の模範となり引っ張っていくのは大変でした。今後得意の押しでがんばります。」とこころ笑いしました。

中部日本中学校野球大会県予選会が行われ、県内各地区代表校16チームによる熱戦が繰り広げられた中で、勝山中中学校（安岡明治校長）が優勝し、同校軟式野球部では初めてとなる快挙を成し遂げました。これにより同校軟式野球部は、8月13日からナゴヤドームで開催される中部日本地区選抜中学軟式野球大会に、福井県代表として出場することになりました。

試合の後半になると集中力が欠けて、エラーが出たり、チャンスに得点ができません。中部日本大会では暑さも加わるので、これから全員で集中力を養いたいです。」と、しっかり今後の課題と目標をつかんでいました。39名の部員が新たな栄光に向かい、一丸となつてがんばります。

### 勝山中中学校軟式野球部

## 快挙！中部日本中学校野球大会県予選優勝 目指せ、ナゴヤドームの覇者



## 2007まちづくりシンポジウム 創造性がまちをつくる

6月23日、地域文化資源を活かしたまちづくりをこれからどうデザインするかを考えようと、勝山ニューホテルでまちづくりシンポジウムが開催され、関係者や市民約100人が参加しました。

基調講演では宗田好文氏（京都府立大学人間環境学部准教授）が、イギリスやイタリアの都市での事例を紹介しながら、「遺産が地域によって守られると、その取り組みが変わってくる。」と話され、まちづくりの方向性を共有することが大事であると提言されました。

続いて行われた討論会では山岸市長ら6人が参加し、それぞれの立場からまちづくりへの取り組みや問題点について話し合いました。市長は「がんばっている地域にはもっと応援をし、成功事例については事業化を進めていきたい。」と今後の方向性を示すと、コーディネーターを務めた山崎茂雄氏（福井県立大学准教授）からは、「創造性をいかにまちに残すか、その環境づくりが自治体にとって大事である。」と話され、人が工夫することでまちが良くなっていくことを強調されました。



まちづくりについて真剣に話し合うパネラー

## 幼児教育研究大会

子どもを認めてほめることで心を健やかに

幼稚園父母の会連合会（笠川孝之会長）では、子どもの幸せを考えるつどいとして、7月4日、福祉健康センター「すこやか」を会場に、幼児教育研究大会を開催したところ、約60名の保護者のかたが集まり、会場はほぼ満席となりました。

同連合会では、光陽生協病院のカウンセラーで子どもの心理分析の専門家である熊谷香菜江先生を講師にお招きし、不登校やいじめにあうなど心の病を持った子どもの絵を通して、子どもの心理を察知し、子どもとどのように向き合うべきかについて考えました。今回の講演で、「人間は、自分が認められることで自信が付き、成長していくもの。ほめればさらに成長が加速します。」と熊谷先生は指摘され、「こどもの話を聞くときは、うなずいてあげると心が落ち着き、開かれていきます。皆さんも、ぜひがんばって、このような態度で子どもと向き合ってください。」と保護者の皆さんを励まされました。

講演会では、話を聞く以外にも、参加者全員が心理テストの結果を「エゴグラム」というグラフで表し、その形から性格判断を行いました。また参加者は、4人グループをつくり、向かい合った人同士で家族の良い点や相手をほめたりすることで、人間の心理の不思議さや面白さを体験していました。



心に病をもつ子らが描いた絵を使って子どもの心理について説明される熊谷先生

## 平成19年度水防訓練 増水期に備えて

7月1日、勝山橋上流で平成19年度水防訓練が実施されました。訓練は、大雨洪水警報発令のなか九頭竜川右岸から水があふれ、堤防決壊の恐れがあるという想定で行われました。足羽川が氾濫した平成16年福井豪雨の記憶も新しく、また、数日前には大雨が降り九頭竜川が増水していたことから、参加した消防職員や消防団員らの目は真剣。

参加者全員で土のうを約400袋作成すると、各班に分かれ様々な水防工法に取り組みました。枠入れ工法と呼ばれる作業では、丸太約20本を使い三角錐の形を作つてその中に土のうを積むというものです。完成した工作物はクレーンを使って川に入れると、流れを変えたり勢いを弱めたりできる効果があります。

また、勝山市赤十字奉仕団による応急炊飯や消防職員による救助訓練、防災ヘリコプターによる救出訓練も行われました。



番線を使って丸太を固定する消防団員